



教職の魅力共創  
愛知教育大学 未来共創プラン

# 愛知教育大学 NEWS Vol.3

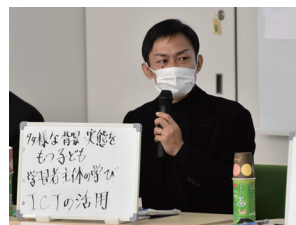
2022年3月31日発行



## 公開シンポジウム「新たな学び・学校のかたちの共創」を開催

2021年11月20(土)、愛知教育大学次世代教育イノベーション棟にて、公開シンポジウム「新たな学び・学校のかたちの共創」を開催しました。本シンポジウムは、ハイフレックス方式で開催され、オンラインでの参加者も多数ありました。今回のシンポジストは、同名で刊行予定の叢書『新たな学び・学校のかたち(社会共創編)』に投稿していただいた6名の方々です。

野田敦敬学長の挨拶に続き、小塚良孝学長補佐より本シンポジウム企画の背景である「教職の魅力共創プロジェクト」について説明がありました。小塚学長補佐は、「教職をめぐる社会の声を聴き、そして社会の声を伝えていくこと」の重要性を強調し、こうしたシンポジウムや刊行予定の叢書を通して、社会全体が学校教育を共創していく当事者となることを期待していると述べました。



應田 博司 氏

は、GIGAスクール構想における1人1台端末がこれまでの教育観の転換を求めていると述べ、その上で、ICT活用能力の形成にとどまらない生活全般に適用できる良き使い手となる学び(デジタル・シティズンシップの育成)が必要だと指摘しました。應田博司氏(富士通Japan株式会社)は、自社開発のツールや学校との共同研究から、外国にルーツを持つ子どもなど多様な背景を持つ子どもの主体的学びを深める上でのICTの可能性を強調しました。黒野風咲氏(愛知教育大学教職大学院生)は、メタ認知を働かせながら学ぶ姿を「主体的な学び」と捉え、教職大学院の実習の経験から、子どもたちに効果的な振り返りをさせることで追求の姿が深まり、一人ひとりの興味関心を保障できるのではないかと述べました。加藤圭太氏(愛知県立旭陵高校通信制教諭)は、多様な背景を持つ通信制の高校生に合わせた経験から、生涯学習時代、



林 一真 氏



堀田 泰成 氏

さらにはコロナ禍において、自ら学ぶ力を形成していくことが通信制だけでなく広く高校生にも必要であると指摘しました。堀田泰成氏(弁護士)は、学校が子どもたちにとって「明日も学校に行きたい」という場になっていないのではないかと問題提起しました。さまざまなことが学校に期待されている現状に対し、家庭や

地域に委ねることを整理していくことで先生も子どもも余裕を持つことができるのではないかと強調しました。早川浩史氏(江南市立布袋小学校長)は、校長としての経験から、子どもにとって学びたい学校、保護者にとって通わせたい学校、教職員にとって勤めたい学校との三位一体の学校づくりが必要であると述べました。

その後、パネリストの間で質疑を繰り返しながら、議論を深めていきました。そこでは、ICTならではの学校づくりや学びの可能性、新たな学びがもたらす学校・教師の負担感、多様な背景を持つ児童生徒の学び、地域-保護者-行政との連携のなかで学校改革などについて、活発な意見が交わされました。



早川 浩史 氏

後半はパネルディスカッションで浮かび上がった論点として、①これからの学校・学びにおいて新たにすべきものと引き継ぐもの(不易)は何か、②ICTやAIが学校、学びにもたらすものは何か、③現代の学校が担ってきたこと、抱え込んできた課題を未来の学校や学びはどう変えていくのか、それを変えるために何が必要なのか、をめぐって参加者を2つのグループに分けてディスカッションを行いました。ICTを教育に取り入れるということにとどまらない、教育観・学校観・授業観の転換が迫られていること、それを基盤とした教師の仕事の再構築が求められていることが共通して語られました。

※シンポジストの皆様が執筆された叢書については、本リーフレット最後の「ご案内」に紹介しています。



黒野 風咲 氏



加藤 圭太 氏



後半グループディスカッションの様子



Interview

教職の魅力インタビュー



「学び続ける教師の姿で  
子どもを育てたい」

中野 弘幸先生

安城市立篠目中学校

教職9年目(収録時)

教科：保健体育

2012年ロンドンオリンピック陸上4×400mリレー出場



インタビュー動画

》》 中学校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

教師の魅力はたくさんありますが、一番の魅力は何といっても子どもたちの成長を目の前で見届けられることです。私であれば保健体育の授業を通して、子どもたちがいろいろな運動を楽しんだり技を身に付けたりできると、彼らの素敵な笑顔を見ることができます。しかし、「これをやれば全員ができるようになる」という魔法の指導は存在しません。十人十色の個性に対して、教師はできる限り適切な指導をしていく必要があります。そこが、教師の難しさでもありますが、やりがいでもあります。

》》 教師として中野先生が大事にしていることは何ですか

私は「背中で語る教師」でありたいと思っています。私たち教師は「理想の子ども像」を基に、日々の生活指導や授業を行います。例えば、「整理整頓をしましょう」「字を丁寧に書きましょう」「自主勉強をしましょう」などの言葉を先生から聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。私は、医者の不養生、口だけの指導にならないように、子どもたちに指導する前に、まずは自分でやってみることを大切にしています。子どもは教師をよく見ていますから、これからも背中で語りたくて考えています。

Interview

教職の魅力インタビュー

「子どもが笑顔になる瞬間、楽しいと思える瞬間をどう創るか、日々考えていきたい」

北 奈帆子先生  
幸田町立深溝小学校  
教職1年目(収録時)




インタビュー動画



》》 小学校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

一番は子どもがかわいいことです。小学校5年生の担任をしています。授業や休み時間で元気に活動する子どもの様子を見ると微笑ましく思います。子どもへの指導や関係作りで悩むことも多いですが、子どもの楽しそうな姿や一生懸命な姿を見ると悩みも吹き飛んでいきます。小学校の担任は自分のクラスの子とかかわる時間が長いので、一人ひとりの子どもと向き合うことができます。その分担任の責任は大きいですが、子どものそばで一緒に成長できることにやりがいを感じています。

》》 教師として北先生が大事にしていることは何ですか

子どもの笑顔です。学校が楽しい、クラスが楽しいと思ってほしいです。学校生活のほとんどが授業の時間です。そのため子どもが「楽しい」「やってみたい」と思えるような授業を作れるよう日々研究をしています。自分が一生懸命考えた授業を子どもが楽しそうに受けている姿を見ると嬉しくなります。頑張ってよかった、次の授業も頑張ろうと思え、元気をもらいます。

》》 北先生にとって「教師」とは、どのような仕事ですか

子どもに感動を与える仕事、ワクワクドキドキを与える仕事だと思っています。「そうなんだ！知らなかった！」「面白い！」といった好奇心をくすぐる教材を与え、子どもが頑張る姿をそばで支えることができるのは教師ならではの役割だと思います。一緒に遊んだり、時には泣いたり、笑ったり、喜んだり、いろいろなことを子どもと一緒に経験し、感動を分かち合っていきたいです。



Interview

## 教職の魅力インタビュー



### 「授業で勝負するために 努力することが教師の魅力」

伊藤 真生先生

飛島村立飛島学園

教職11年目(収録時)

教科：社会



インタビュー動画



#### 》》 教師として伊藤先生が大事にしていることは何ですか

教育はやはり「人対人」だと思います。だからこそ、自分は「人間味」を大切にしています。同じ言葉をかけられたとしても、笑顔の担任の先生と、AIやロボットとでは、子どもが受ける印象は全く異なると思います。子どもと一緒に楽しみ、一緒に悲しむ、時には本気で叱る。教師自身が失敗した際には、素直に謝る。こういった人間味こそが、子どもとの信頼関係にもつながります。また、子どもに指導をするならば、教師自身の言動がそれに伴っていないといけないとも思います。その点で、子どもに姿で語れるよう「言行一致」も大切にしています。

#### 》》 伊藤先生にとって「教師」とは、どのような仕事ですか

仕事ではないです。何より、私自身、毎日が楽しくて「遊びに行っている感覚」です。今日は子どもとどうかかわるか、授業では何を仕掛けるかなどと楽しみの連続です。あえて「仕事」と言うなら、「給料に見合わない仕事」です(プラスの意味で)。お金に代えられない貴重なものを子どもからたくさんもらえます。また、教師は「気付かせ屋・チャンスメーカー・伸ばし屋」だと思っています。子どもが自分の能力を、自身の力で伸ばせるように、示唆や機会を与えながら、自ら学んでいけるように、「のせること」が大切ではないでしょうか。

Interview

## 教職の魅力インタビュー



### 「子どものSOSを受け止め、支援のための コミュニケーションを創り出す」

市川 恭平先生

名古屋市立下志段味小学校

教職12年目(収録時)

養護教諭



インタビュー動画



#### 》》 養護教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

子どもからSOSが発せられた時が、一番難しいところであり、自分の力が試される瞬間でもあります。

そのSOSは、学校での悩み、家庭での悩み、子ども自身の心や体の悩みなどその背景がさまざまなので、一つひとつに丁寧に寄り添っていくことを大切にしています。そして、必ず誰かとの連携が必要になります。時として、担任の先生や保護者の方に対して伝えにくい内容も伝えなくてはなりません。そこで、一見すると間に挟まれてしまい、対立してしまうのではないかと不安になることもあります。それでも大切にしていることは、「子どものために」というスタンスで、子どもを中心においたコミュニケーションを取り続けることです。そして、チームで解決していくことをあきらめないことです。

簡単に解決することばかりではないので、対応中は「本当にこれでいいのか」と自問自答して苦しいこともあります。それでも、「先生がいなかったら私だめでした。本当にありがとうございました」と状況が落ち着いた後や、卒業などの区切りの時に手紙などをもらえると、全てが報われた気持ちになり、それがやりがいにつながっています。



Interview

教職の魅力インタビュー



# 「自分の“当たり前”ではなく、 子どもの“当たり前”に思いを寄せる」

中原 一輝 先生

名古屋市立富士中学校

教職10年目(収録時)

教科：理科



インタビュー動画

## 》》 中学校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

生徒が自分たちで課題を乗り越える姿を間近で感じられることが魅力だと思います。行事前に言い合いをしていた2人が行事を通して上手く接している姿を見ると、課題を乗り越えて成長したんだと嬉しくなります。また、生徒に「ありがとう」と言われたときにやりがいを感じます。自分にとって何気ない一言でも、生徒のやる気を上げることがあります。その一言が生徒のためになったんだと思ったとき、やりがいを感じます。

他方、難しさはいろいろな常識を認める力だと思います。生徒たちはさまざまな家庭環境で育っています。また、生徒自身にもいろいろな考えがあり、個性があります。そのような生徒たちとかがかかっていく中で、自分の常識をもとに話を進めていくのではなく、生徒たちの考えをよく聴き、それぞれの考えをすり合わせながら、納得できるように指導をしていくことが難しいところでもあり、教師の腕の見せどころだと思います。

## 》》 中原先生にとって「教師」とは、どのような仕事ですか

教師は「大人の見本」を見せることができる仕事です。教科内容を教えるだけでなく、人のかかわり方、声のかけ方、フォローの仕方などすべてのことが見本になります。教師は生徒と接する時間が多い分、生徒がいつの間にか教師を見本にし、まねすることも多いです。家族以外の大人代表として、大人の見本を見せることで「こんな大人になりたい」と少しでも生徒に感じてもらえればいいと思っています。

Interview

教職の魅力インタビュー



# 「教師は子どもたちと一緒に経験し、 学んでいく仕事」

西垣 祥子 先生

愛知教育大学附属幼稚園

教職10年目(収録時)



インタビュー動画



## 》》 幼稚園教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

子どもの育ちを身近で感じられることです。幼稚園で先生や友達とかがかわる中で、いろいろなことを学び成長していきます。特に幼児期は、新しいことをたくさん学び、獲得していく時期です。一人ひとりの育ちに合わせて一緒に遊んだり援助したりしたことが子どもの育ちにつながった姿をすぐそばで見られることは、大きな喜びです。しかし、育ちは一人ひとり違うため、かかわり方はその子に合わせて異なります。どんな援助がいいのかを常に考え、臨機応変に対応していく難しさを感じています。

## 》》 西垣先生にとって「教師」とは、どのような仕事ですか

教師は「教える」仕事ですが、自分も子どもと共にいろいろな経験をしながらたくさんの方の事を教わり、学ぶことができる仕事だと思っています。どのように声をかけるといいだろう、どんな環境を用意するといいだろうとその時々に合わせて考え、「うまくいかないときは…」「次はどうしよう…」と常により良いかかわり方を考えています。また、子どもたちの発想や考えに驚かされることもたくさんあります。自分では想像しなかった答えが子どもから返ってくるたびに、自分の学びになっています。

Interview

## 教職の魅力インタビュー



### 「さまざまな形で変化していく人の成長にかかわることのできる仕事」

石鍋 圭一 先生

愛知教育大学附属高等学校

教職11年目(収録時)

教科：英語



インタビュー動画



#### 》》 どこに魅力を感じて教師を目指しましたか

教師という仕事には、さまざまな面があります。教科を教えるという面、生徒の安全を守る面、生徒の心に寄り添い人間の成長を導く面、生徒の将来の夢に光を当てる面。数えればきりがありませんが、まとめて言えば、その生徒のすべてに関心を持ち、その生徒の成長を支えるという仕事なのだと思います。まさに人の人生にかかわるという仕事であり、それに見合う責任や緊張感もありますが、思いもかけない成長を見せてくれる生徒を見ることもでき、それが教師という仕事の魅力だと考えています。

#### 》》 高校教諭の魅力ややりがい、難しさは何ですか

高校生という段階まで来ると、生徒一人ひとりが自分の将来に対して具体的な思いや考えを持ち始めています。このような将来に対する思いを実現するための具体的な方法を探すのが高校の時期にあたると思います。自分の思いと現実との間で思い悩む生徒の気持ちに寄り添いつつ、学級・学年・教科・課外活動での指導を通して生徒が新しい見方や考え方を得る手助けをできるのが、高校教諭としての魅力だと私は考えます。逆に難しさとしては、さまざまな生徒の持つさまざまな夢に対してうまく手助けできず、教師として無力感を感じる時もあります。



Interview

## 教職の魅力インタビュー



### 「子どもたちが通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校、教員が働きたくなる学校を創る」

浅尾 知子 校長

津島市立高台寺小学校

教職37年目(収録時)



インタビュー動画

#### 》》 教師として浅尾先生が大事にしていることは何ですか

教師として生活する中で、特に大事にしてきたことは二つあります。一つ目は、初任者として赴任した学校で出会ったある先生から学んだ「我以外皆我が師」という姿勢です。諸先輩の一挙一動や心遣いから勉強することは数多くあり、学びの連続ですが、目の前の子どもたちや保護者から学ぶことも数え切れません。常に謙虚な気持ちで、学び続ける姿勢をその先生の背中から教えていただき、今もずっと大事にしています。二つ目は「知足」という思いです。龍安寺の茶室前にある「知足の蹲踞(つくばい)」と呼ばれる手水鉢でも有名な「足を知る」という思いは、子どもたちにも繰り返し伝え、自分自身も大事にしてきたことです。コロナ禍において、制限されることも多くありますが、不満を口にするのではなく、分相応をわきまえる「知足」の思いを、今後も大事にしていきたいと思っています。

#### 》》 「校長先生」という仕事について教えてください

校長は、学校の代表者であり、学校の教育方針を決めるまとめ役です。その教育方針の具現化として、現任校では「心ひとつ」を合い言葉に、教育活動に取り組んでいます。校長の仕事は多様ですが「子どもたちが通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校、教員が働きたくなる学校」を目指し、尽力することが最も大切な仕事だと思っています。毎朝校門で、登校する子どもの表情や体調を把握しながら「〇〇さん、おはよう」と声かけをしています。「おはよう」だけでは素通りしてしまう子も、名前を呼んで声をかけると、笑顔で応えてくれるからです。そのためにも、年度当初は、子どもたち全員の名前を覚えることから始めています。



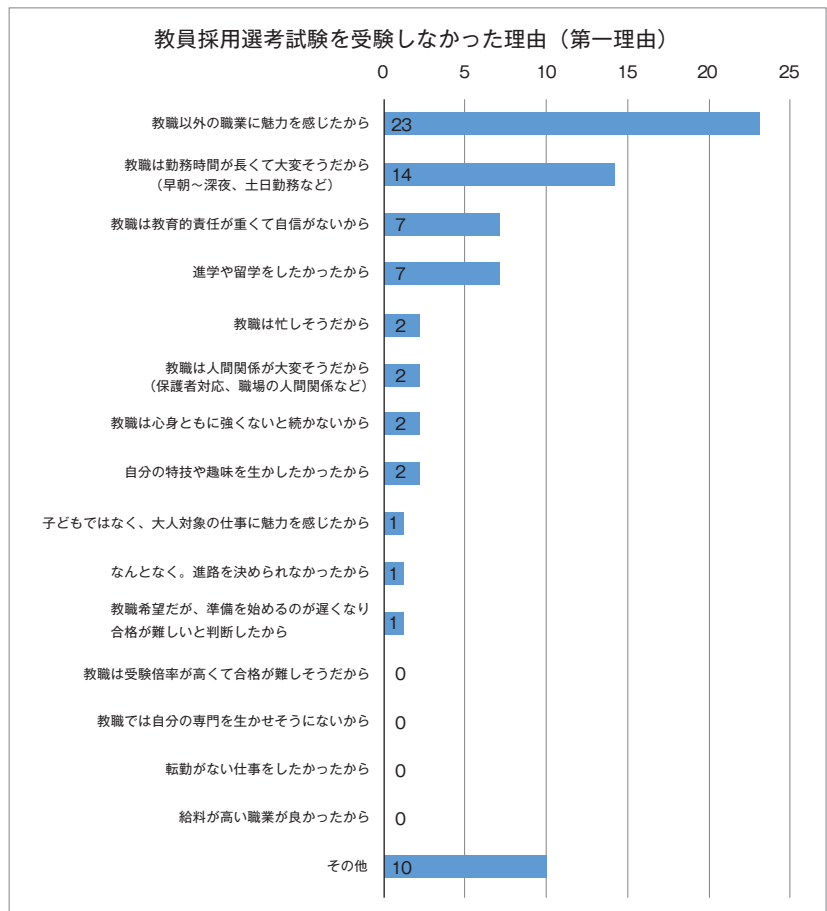
# 教職の魅力アンケート調査2021を実施

近年、公立学校の教員採用選考試験の倍率は低下しており、受験者数が全国的にも、本学においても減少傾向にあります。このような状況を受けて、本プロジェクトでは本学のキャリア支援課と連携を取りながら、教員採用選考試験を受験しなかった4年生を対象としたアンケート調査を実施しました。2021年11月21日時点で合計72名から有効回答を得ました。

教員採用選考試験を受験しなかった第一の理由に関しては、右図の結果が得られました。「その他」の回答の内訳も含めて、理由として多くあげられた回答の傾向は次の二つにまとめられます。①「教職以外の仕事への魅力を感じたから(大学院進学や留学含む)」②「労働環境や教育的責任などの教職の負担感」です。前者については、入学後に教員志望ではなくなった学生においても高い回答率となっています。

また、同調査では、あわせて教員採用選考試験を受験しないという意思決定に影響した事柄についても質問しました。その回答結果から、第一の要因として教育実習をあげる学生が最も多く33%という高い回答率でした。特に、教員採用選考試験を受験しなかった第一の理由として教職の労働環境の問題点をあげた学生のうち6割以上は教育実習が意思決定に影響を与えたと回答していました。

今後の取り組みとして、本アンケート調査の回答者から20名程度を抽出して、教員採用選考試験を受験しない要因、特に入学後に教員志望を変更した要因について多面的に探り、類型化し、受験率向上を図る対策を検討していきます。



## ご案内

### シリーズ 「教職の魅力共創」2冊を刊行

愛知教育大学「教職の魅力共創」編集委員会(委員長 野田敬)では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、叢書を立ち上げました。今回は『新たな学び・学校のかたち』と『未来の社会を共に創る社会科授業』の2冊を2022年3月に刊行しました。現職教員、大学教員、教育行政、大学院生・学部生だけでなく、教育以外の職業に就いている方々にも執筆いただきました。ぜひご覧ください。(愛知教育大学出版会 各 ¥1,000税込)

愛知教育大学生協店舗、生協HP (<https://www.auepres.aichi-edu.ac.jp/howtobuy/>)、Amazonからご購入いただけます。



国立大学法人  
**愛知教育大学**  
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／  
愛知教育大学「未来共創プラン」戦略3  
教職の魅力共創プロジェクト



<https://cocreate.aichi-edu.ac.jp>